

防災学習Point 04

地震の後は火災に注意

地震の後、電気が復旧し倒れている電化製品が通電することで火災が発生しないように「感震ブレーカー」を取り付けましょう。また、火災報知機や消火器を設置しましょう。



大きな揺れの後は、火災のほかに気を付けることは？余震や津波にも注意が必要ね。大きな揺れの後は、繰り返し地震がおきるので、倒れそうな建物やブロック塀などからは、離れた場所にいらないといけないわ。

海の近くにいいたら、津波にも注意ね。

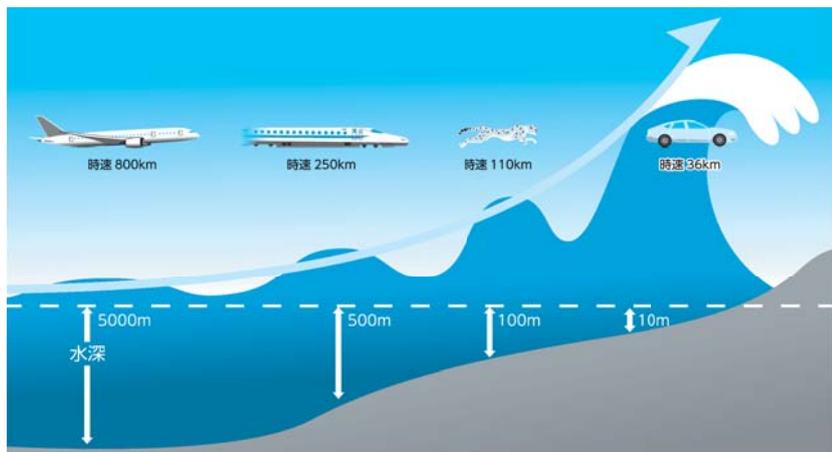
東日本大震災では、大津波で2万人近くの犠牲者が出たんだよ。でも「地震の後は津波が来る」と、自分たちの判断で避難をして助かった子どもたちもいたんだ。

防災学習Point 05

地震の後は津波が来る

海岸近くでは、大きな揺れはもちろん、揺れが小さい場合でも津波警報が出されたら、高台などの安全な場所にすばやく避難しましょう。

※津波の速さは、水深5000mで時速800km、水深1000mで時速110kmです。



防災学習Point 06

防災マップを確認しよう

自宅や自分のいる場所を防災マップ(ハザードマップ)で確認し、津波による浸水などの災害リスクや津波避難施設、指定避難所等の情報を確認しておきましょう。

※防災マップの浸水区域等は避難行動等の目安であり、防災マップの想定にとらわれず、自分で状況を判断し行動することが大切です。



防災マップで、浸水区域や避難場所を確認しておくことも大切だよ。

地震や津波がおきてから慌てないように、普段から備えていないと。家は海岸からすぐ近くだから、時間のある限り遠くの高い場所へ避難しないと。

津波はとても速いから、遠くに避難する時間がないときは、近くの津波避難タワー(津波

防災学習Point 07

防災用品を準備しよう

災害時は物流の停滞や電気・水道等のライフラインの途絶などが想定されます。水や食料は最低3日分(大地震では一週間分)、避難生活に必要な生活用品などを備蓄しましょう。また、貴重品や常備薬などは、非常持出袋(リュック)にまとめて持ち出しやすい場所においておきましょう。



避難ビルへ登るのね。

地震直後は自分の身の安全を確保することが大切だよ。自分の命は自分で守る「自

助」ね。災害の時は、水や食料、生活用品が不足するから、一週間分を備蓄してあるわ。

大切なものは、直ぐに持ち出せるようにリュックにまとめてあるよ。

大切なものは、直ぐに持ち出せるようにリュックにまとめてあるよ。